

第4回北九州市営バス事業あり方・役割検討会議

(議事録：要旨)

1. 開催日時 令和7年3月26日(水) 17:00～18:00

2. 開催場所 北九州市役所 15階 15C会議室

3. 出席者

【構成員】 ※50音順、敬称略

海士野構成員、岩見構成員、内田構成員、大上構成員、太田構成員、

柿内構成員、桑原構成員、多田構成員、寺町構成員、堀内構成員

(欠席：福田構成員)

【オブザーバー】

財政・変革局市政変革推進室市政変革推進担当課長、保健福祉局障害福祉企画課長

若松区総務企画課企画広報担当課長

(欠席：九州運輸局福岡運輸支局運輸企画専門官、都市戦略局都市交通政策課長、

八幡西区総務企画課長)

【事務局】

北九州市交通局

4. 議題

報告書取りまとめ

5. 要旨

【構成員】

資料はこれまでの議論の結果をよくまとめており、良い出来だと思う。九州運輸局は、「データに基づいて将来の予測をすべき」といっている。この報告書(案)は、資料編できちんとデータをまとめており、非常にわかりやすい報告書になっている。

お願いがある。1つは、「無理がない範囲で、この報告書の内容をスピード感を持ち、取り組んでいただきたい。」と思う。なぜ、「無理がない範囲で」と言ったかというと、乾いた雑巾を絞るような経営をしても、それは持続可能ではない。市民の足を守るためにも、事業体としての交通局が持続可能であることは大変重要である。そのため、事業体である交通局を守っていただきたい。

1つは、「丁寧な説明を心掛けていただきたい」と思う。構成員に対しては、丁寧に説明いただいた。これから様々な変革を進めると、利用者が様々な変革を受け入れざるを得ない状況になるおそれがある。そのため、地域に入り丁寧な説明をしていただくことを心がけていただくとよいと思う。

最後に、2月にバスの体験会をされたが、「こういった仕組みがあれば運転者になりたい」というご意見が参加者からあったのなら追記いただきたい。

(事務局)

2月の体験会は交通局として初開催だった。20名の定員に27名程度の応募があった。当日の参加者は17名(内、2名が女性)で1/3が30代以下。また、現役の運転者を交えた座談会も開催した。その中で、勤務体系や働き方について、意見が交わされていた。意見としては、「運転者になることを考えてもよい」というような前向きな意見が多かった。

【構成員】

就職先として運転者を希望する潜在需要はあると思うため、その方たちのニーズを把握することができると、さらに促進につながると思う。

【構成員】

感想であるが、これまでの様々な検討の中で、「交通サービスを地域に残すということを地域の皆さんで合意できた」ということが大きなことだと考える。この検討会議で、「変化を恐れずにスピード感を持って取組を進める」、「事業者だけでなく、地域や利用者、行政が関わりながら地域に良い交通サービスが残せるように、みんなで頑張る。」という意見がでたことが、一番大きな話と考える。

それを前提に、令和7年度に計画を立てると、いい計画ができると思う。

【構成員】

事業者だけで交通サービスを維持していくことは難しい状況である。利用者、沿線の市民の方にも、「交通サービスを維持していくことが難しい状況を認識していただき、いつまでも便利な公共交通が確保されているとは限らない」ということを理解していただく必要はあると思う。

【構成員】

運転者確保策については、すでに取り組み、成果がでている。これまでの会議で大変具体的な議論を重ねてこられたと思う。様々な立場からの意見があり、良い議論ができた。良い意見も出たので、実行していくのがポイント。がんばっていただきたい。

【構成員】

いいまとめになっていると思う。ただ、一番大事なのは2.8億円の経営改善を行っていく。これは収支均衡を達成するためには必須である。

資料中の運賃の見直しについては計算通りの効果がでると思われる。運転者確保策による黒字路線・貸切事業の強化で0.9億円を見込んでいるが、過去の数字を見ると半分程度と思われる。効率的な路線のあり方・運行形態の見直しの効果額は1億円を見込んでいるが、営業係数が300以上の路線を全て無くしてしまっても、1.4億円しか見込めない。しかし、全てはなくせない。結果、0.5億円程度の効果額になると思われる。合計すると、収支均衡に1億円程度不足すると思われる。非常に厳しい将来が待

っている。

これまで議論してきた政策がベストの政策だと思うが、収支均衡を達成できるとなると、現実的には不透明である。後は交通局が検討会議の結果をしっかりと受け止め、着実に効果があがる経営をやるしかないと考える。

そこで、厳しい改善策に臨むにあたり、どのような考えで収支均衡を進めていくのかを伺う。

（事務局）

検討いただいた取組の中には、現時点で具体的でない取組も含まれている。ただ、第3次計画も含め、これまで様々な取組を行ってきた。その中で効果的な取組も多々実施してきたつもりである。ご意見をいただいた検討会議での取組も着実に進めていき、収支均衡にどれだけ効果を発揮するのか、しっかりと都度見極め、一步一步進めていきたいと考えている。

先ほどの「無理をしないように」というご意見もあるため、地元も含めた様々なご意見を踏まえながら、一步一步進めていきたい。

【構成員】

これまで4回の会議を開催してきた。かなり踏み込んだ議論ができたと考えている。

今後は、沿線の市民に向けても、周知を行い、「乗っていただけるような、乗りたくなるような市営バス」になっていただきたいと思っている。

今回まとめられた報告書に基づき、また多方面での議論を踏まえて第4次計画を策定していただきたい。